

## 報告・その他

- 1) Watanabe, K., & E. Brotoisworo (1990) Present situation of Sulawesi macaques. Kyoto Univ. Overseas Res. Rep., VII:
- 2) 渡辺邦夫 (1989) スラウェシマカクはいくつの種に分類できるのか—種分化と雑種形成の謎. モンキー, 227-228: 5-12.
- 3) 渡辺邦夫 (1989) 伊豆大島のタイワンザル—日本に住み着いた外国のサル. モンキー, 226: 4-7.
- 4) 渡辺邦夫 (1989) サルがものを洗うとき. ホームコロジー, 17: 6-10.
- 5) 渡辺邦夫 (1989) スラウェシのサルの来た道. アニマ, 207: 90-95.
- 6) 東滋 (1989) ヤクザルの現状. 自然保護, 326: 8-9.

## 学会発表

- 1) 東滋 (1989) ヤクシマザルの現状について—ひとつの亜種の絶滅をさけるために—. 哺乳類学会シンポジウム「有害鳥獣駆除と問題点」

## サル類保健飼育管理施設

松林清明 (施設長・兼) ・後藤俊二・鈴木樹理・松林伸子<sup>1)</sup>

この年度内に起きた事では、チンパンジーの脱出事件を落とすわけにはいかないであろう。1989年10月3日夕、ニホンザル高浜群の定期健康診断を終えた直後の第二放飼場から、チンパンジーのアイとアキラが出ているのが発見された。オランウータンのドゥドゥもケージから出ているが、これは放飼場の廊下に留まっているところを戻された。アイは調理室を経て事務室に入っていたのを麻醉銃で射られて連れ戻された。残るアキラは、折り悪しく来合せていた近所の小学生3人を追って西側通用門から所外に出、中の1人に軽い外傷を負わせて行ってしまった。警察を始め所員で捜索が行われたが、結局アキラはその夜を研究所近くの山林で過ごし、翌日午後、あるお寺の別院に入り込んだところを麻醉銃で捕獲、連れ戻

された。

たまたま松林施設長が海外出張中で、施設長事務代理の竹中教授を中心に「対策本部」が設置され、捕獲作業の指揮や所外機関との連絡に当たったが、咬まれた小学生を始め近隣の市民には大きな迷惑と不安を与えた24時間であった。「対策本部」は引続き「対策会議」として存続し、原因究明と再発防止に努める一方、事務室を中心に被害者の通院治療の介助を続けた。

調査の結果、最初のスライドドアの南京錠が何らかの外力によって開いてしまい、あとの3ヶ所の錠はチンパンジー (恐らくアイ) が近くにあった錠を使って開けたものと推測され、二度とこういうことが起きないよう、計11項目にのぼる改善策が実行に移された。サル施設は研究所のサル類を安全に飼育する責務を負っているわけで、事態が予測困難なものであったとはいえ、錠の管理法に不適切な点があったことは事実であり、強く反省しなければならない。今回の件で傷を負った小学生はじめ、研究所近辺の市民の方々には多大のご迷惑をおかけしたことを先ず深くお詫びしたい。そして再びこのような事が起きないように、動物飼育を担当する部署として決意を新たにしなければならない。

逃亡当日と翌日は、近在の動物園からの応援を含め、殆どの所員に総出でアキラの捜索、捕獲に協力して頂いた。事後処理については、所長、対策会議および事務室のご尽力のおかげで、予算を必要とするいくつかの再発防止策をも実施でき、また被害者との和解も成立して一応の決着をみるに至った。心からの感謝の意を表したい。

今回のチンプ事件では特に以下のような教訓を得た。記して参考としたい。1). 南京錠の性能を過信してはならない。構造的に意外な弱点を有している。2). チンプの知能、腕力、粘り強さ、いたずらっ気を過小評価してはいけぬ。ありとあらゆることを何度でもやる性質がある。3). マスコミを侮ってはいけぬ。取材に関する彼らの熱意、スピード、押しの強さは予想を越えるものがあり、対応を誤ると混乱に陥る恐れがある。取材には広報委員会に対応してもらうなど、窓口を整理する必要がある。4). 研究機関といえど、普段から近隣住民との融和を図って、良い関係を保つよう努力する必要がある。万一の時に協力してもらえるか否かの差は大きい。以上

1) 教務職員

施設の所外活動としては、松林施設長が10月にモーリシャスでカニクイザルの捕獲調査を行った。また後藤助手がチベットモンキーの予備調査のため3-4月に中国へ出張した。人事では、事務補佐員浜上希が2月に退職し、後任に梅田恵子が採用された。また任期満了に伴う施設長選挙が2月に行われ、心理部門の小嶋祥三教授が次期施設長に選出された。任期は1992年3月までである。

## 研究概要

### 1) サル類の繁殖に関する研究

松林清明

ニホンザルの精液性状(精液量, 精子数, 精子運動性など)の, 年齢および季節による変化を調べ, 成績を公表した。

### 2) 実験動物としてのサル類の評価

松林清明

モーリシャス島に約450年前に導入されて繁殖しているカニクイザルの純化度をみるため, 現地での捕獲調査を行い, 血液学的ならびに微生物学的検査を実施した。

### 3) サル類の寄生虫に関する研究

後藤俊二

野生ニホンザルを対象に, 消化管内寄生虫相の地域差等について調べている。また, 飼育下個体の寄生虫疾患の臨床病理学的検索を行っている。

### 4) サル類の花粉アレルギーに関する研究

後藤俊二

ニホンザルのスギ花粉症について, 自然発症個体におけるスギ特異的IgE抗体価の季節変動や加齢変化を, 又アンケートおよび捕獲調査を含めいくつかの群れを対象に疫学調査を行った。

### 5) サル類成長の生理学的及び形態学的研究

鈴木樹理

各種サル類の成長を, 血中各種ホルモン酵素などの定量並びに生体計測によって解析した。またこれらの日内変動を明らかにするために, ベスト着用カニューレーション法による24時間連続採血を行った。

### 6) サル類のストレス定量のための基礎的研究

鈴木樹理

日常的にサル類に負荷されている様々なストレスを定量するための基礎的研究として, 同種2個体の出会いの場面を設定し, この際に負荷されたストレスを, 血中および尿中のカテコールアミ

ン, 各種ホルモンの定量によって推定する試みを行った。

## 論文

1) Matsubayashi, K., Gotoh, S., Kawamoto, V., Nozawa, K. and Suzuki, J. (1989) : Biological characteristics of crab-eating monkeys on Angaur Island. Primate Research 5 : 46-57.

2) Kawamoto, Y., Nozawa, K., Matsubayashi, K. and Gotoh, S. (1989) : A population genetic study of crab-eating macaques (*Macaca fascicularis*) on the Island of Angaur, Palau, Micronesia. Folia Primatologica 51 : 169-181.

3) 坂井智恵・浅井鉄夫・金城俊夫・源宜之・杉山誠・平井克哉・橋本晃・松林伸子・松林清明 (1989) : 各種動物におけるカンピロバクターに対する抗体の分布。岐阜大学農学部研究報告 54 : 225-231.

4) Nakano, M., Mizuno, T., Katoh, H., and Gotoh, S. (1989) Age-related accumulation of lipofuscin in myocardium of Japanese monkey (*Macaca fasciata*). Mech. Ageing Dev. 49 : 41-48.

## 報告・その他

1) 阿部賢治・後藤俊二・中村伸 (1989) 各種霊長類におけるA型肝炎ウィルス抗体およびB型肝炎ウィルス関連抗原抗体の保有状況。肝臓 30 : 594-595.

2) 中村伸・峰沢満・後藤俊二 (1989) ニホンザルのスギ花粉症。日本の科学者 24 : 392-393.

## 総説

1) Matsubayashi, K. (1989) : Handling and care of primates. Baboons, XII congress of the Int. Primatological society, Brasilia, Brasil : 143-159

## 学会発表

1) 松林清明 (1989) ニホンザルの精液性状の年齢・季節変化。第5回霊長類学会大会, 霊長類研究, 5(2) : 157.

2) 松林清明 (1989) : 京都大学霊長類研究所におけるサル類保有。繁殖の理念と実際。第5回霊長類学会大会シンポジウム, 霊長類研究, 5(2) : 147.

3) 後藤俊二・千種雄一・塩飽邦憲・角坂照貴・金子清俊 (1989) : サル糞線虫のニホンザルへの感染実験. 第5回霊長類学会大会, 霊長類研究, 5(2) : 171.

4) 後藤俊二・中村伸・峰沢満・金井塚努・横田明 (1989) : ニホンザルのスギ花粉症: 自然発症群の調査・検索. 第36回日本実験動物学会総会, 実験動物, 38(4) : 365.

5) 鈴木樹理・石田貴文・竹中修・川本芳・Puttipongse Varavudhi (1989) : タイ産カニクイザルの形態学的特徴. 第5回霊長類学会大会, 霊長類研究, 5(2) : 150.

6) 三輪宣勝・後藤俊二・北浦賢次・溝上雅史 (1989) : セピロク・リハビリセンター (マレーシア) におけるオランウータンの健康調査. 第5回霊長類学会大会, 霊長類研究, 5(2) : 169.

1989年度（平成元年度）サル類動態表

区分 種名	増加		死亡							
	寄附	出産	実験殺	外傷死	呼吸器系疾患	消化器系疾患	循環器系疾患	泌尿器系疾患	その他の疾患	不明
コモンツバイ										2
オオガラゴ		2						1		
ワタボウシタマリン		10	4	3	1				3	1
ヨザル		1							1	
リスボン										1
ニホンザル		64	66	1	1	5	1		1	2
アカゲザル		52	46	2	1	4				4
タイワンザル		2	2	3						
カニクイザル	22	11	17			1			1	
ボンネットザル		2	2	1		1			1	
マントヒヒ		2							1	
オランウータン							1			
小計	22	146	137	10	3	11	2	1	8	10
合計		168				182				

注) 増加総頭数-減少総頭数=差引減少頭数

$$168-182=-14 \text{ (減少)}$$

1989年度（平成元年度）末飼育頭数

種名	頭数	種名	頭数
コモンツバイ	9	ニホンザル	412
ワオキツネザル	5	アカゲザル	246
オオガラゴ	4	タイワンザル	13
コモンマーモセット	4	ブタオザル	4
ワタボウシタマリン	14	ベニガオザル	4
ヨザル	9	ボンネットザル	13
リスザル	3	カニクイザル	58
フサオマキザル	9	アッサムザル	2
チュウベイクモザル	1	セレベスマカク	2
ケナガクモザル	1	マントヒヒ	9
ミドリザル	6	シロテテナガザル	2
パタスザル	2	アジルテナガザル	2
ミドリザル×パタスザル	2	チンパンジー	10
		合計	846